

目指す授業づくりに向けて

No. 2

H26年5月21日

提案授業 3年2組 国語科
単元名：だん落に気をつけて読もう
教材名：「自然のかくし絵」
授業者 吉井 惇也

【成果】

- ・『かくし絵カード』が書けるようになるために」というめあての提示が、目的意識やゴールイメージをもつために有効だった。
- ・本単元で学習したカードの書き方を四万十川の学習にも使っていくことで、つけた力を他教科へも生かせる単元構成となっていた。
- ・デジタル教科書や写真の提示方法がよかった。児童が視覚的に確認したり、大事なところで集中させたりするために効果的に活用されていた。
- ・無駄な時間を作らず、授業がリズムよく展開されていた。
- ・子ども達は、例に出てくる虫の「すごさ」を必要な段落からとらえることができていた。
- ・個人の作業や全体での発表、並行読書など、児童の意欲が十分に感じられる授業だった。
- ・指示や発問が明確でわかりやすかった。
- ・吉井先生の的確な評価で児童の意欲が高まっていた。先生の意欲が児童と共有できており、よい雰囲気での授業ができていた。
- ・研究協議で「指導要領解説」に基づいた反省や協議ができていた。

【課題】

- ・本時のねらいである各段落の大事な言葉のおさえが弱かった。カードに生かすためには、教材文に戻って、大事な言葉がどこに書かれてあるか、どんな文型で書かれているか確認していく必要があった。
- ・めあては「くらべよう」となっていたが、比較する意識は薄かった。本時はカードの「中」を書くための学習なので、比較よりも大事な言葉を吟味する授業にしたらよかった。
- ・並行読書の時間確保をどうやってしていくか。
- ・「引用」のおさえ。「引用」とは、文や言葉をそのまま引いてくることなので、今回は、元の文章や構成、表現を生かしてまとめる「要約」がねらいとなる。

【取り入れる点・次につなげる課題】

- 国語の学習でつけた力を他の教科や領域でも生かしていく。その場合、指導案の「指導観」にもどうやって活用していくか記述していく。
- 「引用」「要約」などの学習用語は、解説等を参照し、正しくおさえて指導にあたる。
- 単元構想をする際、指導事項をしっかりと確認した上で、学習過程や1時間ごとのねらいに反映させる。また、単元名との整合性についても考慮する。
- デジタル教材を今後も積極的に授業に取り入れ、有効な使い方について検討していく。